西日本新聞 (明治25年3月26日第3種郵便物認可) 第47634号 (日刊)

西日本新聞
2016年 6月5日 (日曜日)

山好き必携、情報満載!
九州の登山口 401
●出版部 書店で好評発売中

福間病院
精神科 心療内科 内科 歯科 院長 東 和也
福岡県福津市花見が浜1丁目5番1号
☎0940(42)0145(代表)

(第3種郵便物認可) 西日本

九州毎日入り、愛しご也盛て玄

活動は20年ほど前にスタ さんいるので少しでも力に 37。

TAO×竹田

文化芸術は街を元気にする!

魅力発信 世界への使者

久住発 サンデーコラム

2月に米ブロードウェーでの初公演を成功させるなど国内外で高い評価を受けている和太鼓のパフォーマンス集団「DRUM TAO」。竹田市久住町を拠点に独自のアーティスト性を磨き、活躍の場を世界に広げてきた。2018年には久住高原で和太鼓などを教える芸術学校の建設を予定するなど今後は地域貢献にも取り組む考えだ。竹田で培った感性や将来の展望、地方創生について今回はタオ・エンターテイメントの藤高郁夫社長と竹田市の首藤勝次市長が語り合う。(構成・河合仁志)

竹田市長と藤高社長対談

―TAOの活躍をどう捉え、学校構想には市としてどう関わっていきますか。

首藤 常に世界を見ているTAOの存在は大きい。学校構想は市が目指す方向性とも連動する。市の魅力がTAOの翼に乗って世界に発信されるとうれしい。地方創生でその土地にしかない、その土地ならではの企画力が試されている。TAOの学校構想を軸に政府から「地方創生加速化交付金」を得た。構想を具体化していくお手伝いができる。

藤高 (拠点を置くTAOの)里で培い集約したエネルギーを基に、世界に挑戦して大成功した。メンバーにはアーティストとしてさらに高みを目指してほしい。芸術学校の講師や、あらゆる分野に参画していくことでパフォーマンスもさらに良くなる。久住高原にTAOの核となる天空の舞台、世界にどこにもない舞台ができればストーリーがつながっていく。

―課題は何ですか。

首藤 文化芸術に携わる若手作家たちと同様に、TAOのメンバーも竹田の城下町に住めば若い人同士の異文化交流の場になる。生活拠点が文化交流の場になれば、裾野の広い文化芸術の町として全国や世界に示すことができる。そのために住宅環境を整えたい。

―熊本地震の後、社長の故郷でもある熊本でサプライズライブをされました。

藤高 熊本民謡の「おてもやん」をR&B風にして藤崎八旛宮(熊本市)の秋季例大祭での口上も取り入れた「熊本」という新曲を作り、5月15日にフェイスブックで集まった人を前に披露した。大分も湯布院をはじめ痛手を負った。TAOが力になれればうれしい。

―竹田も4年前の九州北部豪雨で大きな被害を経験しました。

首藤 竹田は大きな水害や災害がよく起こる。その都度立ち上がってきた。TAOが元気を呼び起こしてくれるというのは、地域にとっても強みだ。

―地方創生に向けて。

首藤 竹田の盆地が育む空気感、遺伝子みたいなものが滝廉太郎や文人画家、田能村竹田、童謡作詞家の佐藤義美など一流の人たちを生み出してきた。世界に通用する感覚が生み出される土壌と思いたい。あらゆる可能性を持った人たちが住み始めると町が変わる。人の力は大きくて、違った感性、活動が町に刺激を与える。

竹田には今、全国から若者がおもしろがって集まり始めている。それを受け入れる店や住居が必然的に求められ増えていく社会現象も生まれてくる。これ以上の過疎化対策はない。文化芸術の力がこれほどまでに力を見せ始めたのは願ってもない現象だ。竹田らしい運動でもって全国トップクラスの魅力ある土地に育てたい。TAOにこの運動を引っ張ってもらいたい実際にやってもらっている。世界への使者、TAOの情報発信力は最高のツールだ。

藤高 久住高原を、多様な国の人が来たときに「ここが日本で一番すてきな場所です よ」と言えるように東京五輪の20年までにしておきたい。こんなロケーションは他にないですから。

今後の展望や「地方創生」について意見をわす竹田市の首藤勝次市長(左)とタオ・エンターテイメントの藤高郁夫社長

きょう
福岡 北九州 筑豊 筑後 佐賀北 佐賀南 長崎北
朝 昼 夜
6時~12時~18時~
降水確率
あす
福岡 北九州 筑豊 筑後 佐賀北 佐賀南 長崎北